

第4回川崎市史市制 100 周年記念版編集懇談会 会議録（摘録）

- 1 日 時 令和7年4月22日（木）午後7時～午後9時
- 2 場 所 川崎市総合自治会館 大会議室3
- 3 出席者
 - (1) 委員 阿久津委員、大城委員、大島委員、嶋田委員、鈴木（ひ）委員
鈴木（勇）委員、反町委員、高田委員、竹内委員、中村委員
にしにし家委員、羽賀委員、福森委員、望月委員
 - (2) 事務局 総務企画局コンプライアンス推進・行政情報管理部：大村部長
総務企画局公文書館：相原館長、堀切担当係長
TOPPAN 株式会社：浅井、大高、鶴岡
株式会社トップノック：片岡
市史だよりライター：早川
株式会社アーク・コミュニケーションズ：渡部、佐藤
- 4 次 第
 - (1) 開会／趣旨説明
 - (2) 「川崎市の、わた史。」の取材先候補について
 - (3) 「街歩きスポット」について
 - (4) 総括／次回案内
- 5 公開・非公開の別 議題（1）、（3）、（4）は公開
議題（2）は非公開（個人情報が含まれるため）
- 6 傍聴者 なし

（次第一1） 開会／趣旨説明

相原館長

本日は、大変お忙しい中、第4回川崎市史市制 100 周年記念版編集懇談会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。昨年度から編さんを市史として進めさせていただいている本件につきまして、今後は「川崎の歴史の本」と呼ばせていただきますが、委員の皆さまのお陰をもちまして、この本の制作も順調に進めていくこと

ができており、このたび構成案も決定し、HPに公開させていただいております。誠にありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。

さて、本日は令和7年度初めての会ですが、人事異動によりまして、コンプライアンス推進・行政情報管理部長が新たに大村となりましたので、皆さまに御紹介させていただきます。よろしくお願いいたします。

大村部長

お時間いただきましてありがとうございます。ただ今、御紹介いただきましたコンプライアンス推進・行政管理部長の大村でございます。前職は危機管理ということで、危機管理本部からやってまいりました。24時間・365日体制からだいぶ変わっております。ただ、危機管理にあたっては、地名と土地の形状ということを押えた上で、実は出前講座みたいなことをやっておりました。それがどういう縁なのか、私が学んだものを活かせる場所に参りましたので、皆さまの御議論を楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

(全体一同)

よろしくお願いいたします。

相原館長

ありがとうございます。次に堀切係長から事務連絡を行いまして、それからの進行は事務局の片岡さんにお任せしてまいりたいと思います。

事務局（堀切）

議事に先立ちまして、手短かに申し上げます。

本日の懇談会ですけれども、議題1に関しましては、一部に個人情報が含まれますので、非公開とさせていただきます。

会議録につきましても、議題1に関しましては非公開とさせていただきます。ただ、議事録自体は作らせていただきますので、ご確認をお願いさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、第4回の編集懇談会を始めさせていただきます。以降の進行に関しましては、事務局の片岡さんに引き継がさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(編集注 意見交換の参考資料として、市制100周年記念誌『カワサキノコト』、副教材『かわさき2014』、新修福岡市史シリーズ1～3を委員席の周辺に配置)

事務局（片岡）

それでは今年度もよろしくお願いいたします。今、堀切さんの方からもお話ありま

した。第4回編集懇談会へのご参加ありがとうございます。本日のアジェンダはこの大きく4点というところで進めさせていただきます。

次にお話させていただくところとしては、色々とお出しいただいていた、「わた史」の取材先をご提案のところで、もうすでに皆さまから集約させていただいているところを、このホワイトボードに沿って、その方のお名前と、「どのような方ですか」と、「なぜその方ですか」、あと、最後に「どんなことをお話いただきたいですか」というところを、簡単にお話いただければと思います。

あと、また今回も1人当たり3分としているのですが、鶴岡の方が立ち上がりましたら、一旦「時間になりました」というところですので、そちらの方もご協力いただければと思います。

その後、「まち歩きスポット」のところで、本日、お配りさせていただいている資料の中に構成案が入っているのですが、その部分（編集注 構成案の「地図で感じる歩きたくなる川崎史」のこと）を深掘したりするとか、あとは、もし追加で「こんなところはどうだろう」とかありましたら、いろいろご意見をいただければと思います。一応、こちらについては、全員に順番にご意見を伺うというより、挙手制でご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

最後に、全体の総括というところと、次回の取り上げる議題を説明させていただきたいと思います。

（次第一2） 「わた史」の取材先について

事務局（片岡）

それでは、早速懇談会の方に入っていきたいと思うのですが、本日のテーマ「川崎市の、わた史。」の取材先候補について、このテーマについて、一旦浅井の方から説明いたします。

事務局（浅井）

本日もありがとうございます。この度、懇談会での議論を深めていただきまして、このように構成案が決定しておりまして、市長さまの方にもお認めいただいて、この後プレスリリースも出していくような運びとなっております。

本日お話いただきたいのは、この4番の「川崎市の、わた史。」としているところですが、「～人からわかる川崎市の歴史～」というパートを設けようとしております。

こちらは、川崎市にお住まいの方、活躍されている方への人物取材を通して、背景にある歴史や文化を浮き彫りにした記事を載せたいなという意図でございます。事前

に「どういったご推薦をいただけるのでしょうか？」ということでお聞きしまして、それぞれメールで挙げていただきまして、ありがとうございました。本日はそちらをリストにいたしました。また、7区間のバランスを取るということも本として大事にしておりますので、区ごとに分けてみた資料もご用意しております。そちらも見ていただきつつ、ご自身のご推薦の理由を教えてくださいと思います。

事務局（片岡）

ありがとうございます。そうしましたら、早速進めて参りたいと思います。

鈴木（ひ）委員

すみません、「わた史」（の取材先）には、どういう方が望ましいかというのを教えてください。

事務局（浅井）

はい。編集から説明をお願いしますか？

事務局（渡部）

はい。この企画に関しましては、インタビューを行うんですが、その人柄よりもその背景、例えば、農家さんであれば、どういったかたちで農家になったのかの部分で、あとは、その歴史的な部分で、例えば川崎の農業だったら梨とか歴史があるものの、伝統的なものだったりするので、そういったところから歴史の部分が見える、というところが企画の肝になっております。

鈴木（ひ）委員

そうすると、その方自身が川崎の歴史と文化に詳しくないとダメですということですかね？

事務局（渡部）

そうですね。

鈴木（ひ）委員

その方を通して語ってもらおうということですね。人柄とかよりも、知識や経験（の方を重視するですかね）。わかりました。

事務局（渡部）

そうですね。もし、ご推薦いただくその方で、個人的にやり取りがあるということであれば、最後に「この方とは連絡取れますよ」と一言いただければと思います。よろしく願いいたします。

事務局（片岡）

例えば、昔から、江戸から続く八百屋さんみたいな。そういった歴史の知識って

うよりかは、語り部みたいな方もそれはオッケーです。堅苦しい知識ということだけではなくて、どちらかというとその地域のこととか、そういったことをお話できる方も1つ含まれるかと思います。

事務局（浅井）

こちらは、今、川崎の100年ということでやっていますけれども、その方が100年間生きていらっしゃる、つまり長寿の方に絞る必要はないというのがこちらの考えです。ご自身の活動でしたり、「これまでこういう人がやってきたことを受けて、今私はここにいます」ということを語れる方であればふさわしいかなというふうに思っております。皆さまと7区の方が全員、「わしは90年…」みたいな生い立ちを喋るということではなく、やはり活動や川崎「市」のことを語れる方というところで、イメージしていただければと思います。

《(次第一2)「わた史」の取材先について、以降は非公開です》

事務局（片岡）

ありがとうございます。ほんとに様々な方がここまでご推薦いただいて、正直どの方も大変魅力的で、どういうふうにカテゴライズして、どういうふうに見せていくか、それこそ、もしかしたらウェブ版とかまで発展してしまうのか。そこらへんも踏まえて色々と、こちらで検討していきたいなと思いますので、ぜひ、我々の方ですね、一度お預かりさせていただければと思います。ありがとうございます。続いて、次の議題にいきましょうか。

（次第一3） 「街歩きスポット」について

事務局（浅井）

次の話題ですけれども、街歩きスポットについてのアイデア、ご推薦、ご知識をいただければと思います。

それで、こちらは再度（のお示し）ですけれども、構成案の中の「地図で感じる歩きたくなる川崎史」こちらの中身としてのアイデアをいただきたいなと思っております。お手元の資料で「構成案第2版」をお配りしておりますが、こちらの中です、119ページから「地図で感じる 歩きたくなる川崎史」ということで、編集側から7つの話題の提供をさせていただいております。例えば、埋立地や地勢の変化ですとか、二ヶ領用水の話、遺跡の話、あと東海道の川崎宿の話などがあります。

こちらは、アンケートなどから、市民がこういったところの歴史の謂れであると

か、エピソードを知りたいというところで選んできたところですので、ただ内容の大枠は決まっていますけど、（まだ）ぼんやりとしているので、この7項目（の範囲に沿って）、具体的に「二ヶ領用水に行くなら、あそこを見に行ったほうが良い」とか。例えば、この「幻の〇〇を訪ねて」というところでは、「他にこういった幻のものもあるので、調べてみたらどうですか」というご意見とか。この構成案を見ながら、「ここはどうだろう」というご意見や思いつくところがありましたら、挙手でいただけたらと思います。お願いします。

事務局（片岡）

そうしましたら、先ほどと近い形で、一応場所名と、「どんな場所ですか」というところ、「なんでその場所にしましょう」のところと、補足として多分ここに集約されるかもしれないですが、「こんなことをもし書くのだったら書いてほしい」というところの部分がもしありましたら、いただければと思います。

そうしましたら、これは完全にフリートークになりますので、挙手制でお願いします。

（竹内委員が挙手）

竹内委員

この120ページの「川崎の地形はこうやって生まれた」というところでは、川崎駅の東側にチネチッタというシネマコンプレックスがあって、そこからアーケード街になって銀柳街、さらに行くとも銀座街、その先は川崎駅（という道があります）となります。この道は昔、川だったのです。戦前、たぶん小川なんですけど、さらに遡ると数百年前は多摩川だったらしいです。だから、この地形を辿っていくと、昔は多摩川があったところがこんなふうになっちゃった。

チネチッタに、映画の歴史を、チネチッタの映画館の歴史を説明する小さな展示スペースみたいのがあったりとか、結構面白いところもあって、そういうのも紹介しながら、「この道を辿っていくと、昔の川があります」とかは、面白いんじゃないかと思います。

事務局（片岡）

チネチッタのところから川だったんですか？

竹内委員

川というか、地形図を見ればわかるのですが、多摩川が蛇行していたのです。江戸時代の多分ははじめぐらい、それがだんだん小さくなって、小川が残っていた。戦前にはあったのです。

事務局（浅井）

今、下に水は残っているのですか。

竹内委員

そこまでは分からないですね。それをさらに行くと、多摩川までずっといくと、今度（できる）新しいアリーナのあたりまで行くのです。それも繋げると将来、未来に繋がるから面白いかなと。

事務局（片岡）

ちょっと一瞬掘り下げても良いですか。思ったのは、まさに元が川だったところが、チネチッタもそうですし、銀柳街もそうですし、今後 DeNA さんの場所も、要は中心になるじゃないですか。川と町のそういった関係性って、あるのでしょうか？ここにプロがいらっしゃるので、逆にお伺いしたいなと思うのですけど。

望月委員

近代以降は、その川崎が工場を招致するにあたって、どこに招致するかというと、工場側としても物資の輸送に便利なところというのが1番ありますので、そうすると、やはりその多摩川の水運が1番重要でしたから、川崎でまず工場ができ始めるのは多摩川周辺ということなのですよ。

明治製糖から始まって、東京電気（現 東芝）もそうですし、味の素もそうですし。ですから、そこから近代以降の工業都市としての川崎の始まりっていう部分では、多摩川のまちづくりの影響っていうのは若干あったかなという気はしますね。

事務局（片岡）

ありがとうございます。もう1個気になったのは、なぜ埋め立ててしまうのか。

それで渋谷も渋谷川がめちゃくちゃフォーカスされていたじゃないですか。なんか最近徐々に出てきましたけど。なぜ重要なものだったのに、埋め立てられて、でもその上には重要な場所があり続けるのかなというのは、不思議だなってすごく思ったのですけど。

望月委員

都市化が進むにあたって、河川があると邪魔ですので、それをどうしても暗渠にして、その上にものを新しく作るっていう考え方だと思います。

だから、その辺が、日本の街づくりの基本的な考え方で、1回リセットした上で、新しいものを作っていく。ヨーロッパは古いものを大事にしながら、新しいものをその要素に乗っけていくというのが、ヨーロッパの都市づくりですけども、日本はその逆で。奈良時代から平城京が作った時に古墳を壊しちゃいましたというのと同じ

で、それは日本の都市づくり、まちづくりの1つの特徴ではないかと思います。

事務局（片岡）

なるほど、逆に都市じゃないと、それはあまり発生していないことでもあるのですかね。

望月委員

発生してないですね。東京では、お城の堀の多くが全部高速道路で、かつての風景がなくなっている。

事務局（片岡）

じゃあ逆に、川崎市が発展したからこそ、そういったものがなくなって、さらにそこが町として発展していったってところがなんか1個の歴史の問いになっていますよね。ちょっと頑張ってください、個人的に答えを知りたいです。すいません。めちゃくちゃ面白いです。ありがとうございます。

鈴木（勇）委員

おそらく、そんな感じで埋め立てられちゃっているわけですけど、やっぱり歩き回ると、かつての隠された日本人の記憶というのは必ず見つかるはずなのです。

事務局（片岡）

面白いです！ちなみに「ここ」ってありますか。

嶋田委員

望月先生がブラタモリで武蔵小杉とかをやって（案内されて）いましたよね。

鈴木（勇）委員

武蔵小杉の等々力とかも、あの辺りはすごく、かつての川の記憶というのは濃厚なところなのですが。

事務局（片岡）

かつての川の記憶とは？

鈴木（勇）委員

やはりこの、状況によって、何らかの時に（水が）噴出することがある。例えば水が出てきたりするわけですね。

事務局（浅井）

流れていた場所があるから、ということですね。

事務局（片岡）

なるほど。そういうことですね。でも、それも1つ、防災じゃないですけど、水害とか、そういったところも1つの知らない歴史なのかもしれないですね。「かつて

の川の記憶」をテーマとして欲しいですね。

事務局（浅井）

かっこいいですね。

鈴木（勇）委員

やはりそのあたり、近世から近代にかけて、やはり川が非常に大きかったわけなんですけど、それがだんだん陸上、鉄道とかの交通に変わってくると。そうすると、例えば南武線が開通しますけれども、やっぱり最初は川との結び付きというのが強くて。今、河原町団地というのが幸区にありますけど、その横にかつては、その川に直接連絡するために川崎河岸駅という南武線の支線があったのですね。そこで直接解（はしけ）に（荷物を）落として、鉄道と河川交通のやり取りをしていたわけなんですけど、今はそこから公園になって、そして矢向の近くまで、ずっと緑道として保存されているわけなんです。

ただ、もう1つ面白いのは、やっぱりあの辺りというのは横浜市と川崎市というのがすごく混じり合っている、境界が混じり合っているところですので、緑道を歩いていくと、ずっと線路に沿って緑道になっているのですけれども、あるところでパンと（道が）消えるのですね。あるところで、突然民家になるわけなんですけれども、それは、その先が横浜です。なんか毎回横浜ネタを出している気がするのですけれども。やっぱりそういうところ、昔からの、古くからの記憶、それから近代の交通の移り変わり、それから現代の行政区分、そういうものも、歩いているとやっぱりどこかで出てくることは出てくるのですね。

事務局（片岡）

川は(テーマとして)めちゃくちゃ広がるのですね。「川崎」の「川」も何かあるのではないかという気持ちになりますけどね。

にしにし家委員

書いてあったのですけど、二ヶ領用水やっぱり良いなと思っていて、知り合いの方から聞いたのですけど、二ヶ領用水の遊歩道があって、桜とかすごく綺麗で、そこ歩けるから、見た目も良くて、しかも散歩してもすごく良いのですけど、その遊歩道を最初作ろうとした時に、その農家の人たちがすごく反対したんだそうです。それを説得して、20～30年かかって、ようやく道ができたという（話を聞きました。）。市役所の人たちの努力の結果できたのだなという感じです。

事務局（片岡）

なんで反対されたのですかね。市民の生活を豊かにするような気がしますけど。

にしにし家委員

でも、そこに住んでいる人たちが畑とかを耕すために、田んぼとかのために使っていたものが、そこの人たち以外の人たちも通れるようになる、使えるようになるということですかね。

事務局（片岡）

確かに、水と戦争は常に繋がっていると言いますが。そんなことがあるのですね。

中村委員

私が初めの時に言った（話ですが）、琴平神社に（水争いが）どうなったかというのが全部残っているんです。

それで、私も撮った写真だけはスマホに入っているのですが、なぜ用水を広げたっていうマップと、その歴史の話が琴平神社に残っています。琴平は、麻生区にあって、二ヶ領用水は通ってないのですけれど、通ってない外の人が冷静に判断をして、平等に水が流れるようにしたという話は琴平の宮司さんがおっしゃっていたので、もしよければそこをもう1回話を取り上げてください。

嶋田委員

またなんか暗渠になっちゃった話と同じかもしれないですけど、円筒分水から今残っているのが、幸区の塚越中（学校）ってところ。鹿田島の先の塚越中（学校）というところまでの約8キロが今も残っているのですよ。昔は稲毛領と川崎領で二ヶ領だったのですが、多分川崎領サイドがないのではないかと思いますのですけども、なんでそうになっているんだろうと思ったりしました。

季節的には、春がすごく（良くて）、桜がずっと植えてあって、住んでいる方が、その二ヶ領用水の脇のところに、花壇じゃないけど、作ってくれて、春がものすごく綺麗ですけども。二ヶ領と言いながら、今は一領分しかなくなってないですね。

事務局（片岡）

そこはもうしっかり紐解いて、掘り下げていきたいですね。

鈴木（ひ）委員

歴史とずれるかもしれないですけど、二ヶ領の桜の話で、溝の口ですけど、しだれ桜がすごい綺麗なんですよね。親に薦めていたら、見に行こうと思ったのだけど、（親が）「宿河原にある緑地センター界隈が綺麗で」という話を聞いたから、こっちに来ました」という。違うところへ行っちゃったのですけど、すごく綺麗な桜が咲いているところで、結構8キロもあるので、桜の見どころみたいなのがいっぱいあるかなと思って。「なんかここの桜が綺麗ですよ」みたいなマップがあると面白いなと思い

ます。それをいつ頃「咲くらしい」という言い方にさせていただくと良いかなと思っています。

中村委員

私も続けて、なんかこの「地図で歩きたくなる」のテーマで、私も本当に全くよく分からないまま、皆さんのお話を聞くと、もうこの（歴史的な）ページ（を読む）時には、いつも音声が出て教えてほしいぐらい（が必要と思います）。望月さんが声で、歩きながら、ガイドしてくれるのが1番楽しいだろうなと私は思っています。なんか私たち（のように）普通に引っ越してきたり、子育てしていると、この（歴史的な）テーマじゃなくて、桜とかアジサイとか、つつじの方がよっぽど行きたくなるので。「これ（歴史の話題）って難しくない？」ってすごく思っているんですけど。でもなんかちょっと皆さん、望月さんが面白く教えてくれたら、（歩きたくなるかもしれないですけど）、歩きたくなる時に本も読みながら本当に行くときって、お花の時じゃないですか。

嶋田委員

たぶん春、3月のおしまいから4月にかけて、（私は）ランニングが趣味ですけど、その二ヶ領用水の8キロで、何往復も毎週末走っています。すごく綺麗です。風景が広くなったり狭くなったりして、変わりますね。

中村委員

花の名所みたいなページがないのがすごく残念だなっていうのは、ちょっと思いますね。

嶋田委員

高津区の二ヶ領用水のところには梨園があるんですね。

事務局（片岡）

そういった花の名所っていうのは、今おっしゃったアジサイ寺とかは、まさに今の時期に咲いていると思うんですけど、なんか花が咲いている名所と、花に関連する（名所の）話になっているかな。それってどっちでしょうか。視覚的なことか、それともちょっと文化的なところ、（それによって）見え方違うのかな。イメージとしてはやっぱり見えて楽しめるみたいなのを足すと良いということですか。

中村委員

単純にそれが何月に楽しめるかが分かっていたら、もう大体インスタ（Instagram）とかで、「あ、そろそろ（お花見の時期になっている）」みたいな感じなので、なんかそれが（分かるようなページがあれば）足が運びたくなるのに1番じゃないですか。

鈴木（ひ）委員

花がメインで、ついでに歴史が入っている感じは最高じゃないですか。

中村委員

最高ですね。

事務局（片岡）

僕もすごく思ったのが、桜とかは、それこそ元々江戸の隅田川沿いに植えたのも、結局防波堤が崩れないようにするために地固めするため、客寄せするために植えたみたいな、人がいっぱい訪れて歩くから固まると。すごく安直だけど、結果的に理に適っているなということで、最初入口は楽しいみたいのところから、実はこうだったみたい、というところが音声ガイドまでいけたらベストですね。確かに美術館がありますよね。

中村委員

最高です。QRコードを読んで（音声ガイドを聞くのはよくありますね）。この歩きたくなるっていうか、本当に撮影したくなるみたいなのは（一番の目的になりやすいという気がしますね）。

事務局（片岡）

確かにそうですね。

阿久津委員

それで言うと、等覚院さんがすごいツツジが綺麗で、本当にファンタジーな世界で、本当に素敵なんです。ぎゅっとした場所ですけど、結構観光でもいらっしゃる方も多いです。4月、最近ちょっと（シーズンが）年々早まってはいるみたいですけど、4月末ぐらいになると、みんな見に行くぐらいの有名なところですよ。近くに、東高根の遺跡があるらしいので、そこと繋がって、その辺もちょっと楽しめるのかなと思います。このような花くくりでも良いし、地域で歩きたくなるのも良いかなと思います。

事務局（片岡）

「花」を入り口としても良いなと思って。結局、人が集まりますから、そこから色々深めていく（のはできるので）、良いですね。

にしにし家委員

花で言うとなると、生田緑地のチューリップとか、ばら苑とか、あと、メタセコイヤの木が岡本太郎美術館まで続いている道が、私はすごく好きなのでよく歩いています。

事務局（片岡）

良いですね。本当に写真を撮りたくなるのですね。

ちょっと視点を変えて、一旦ちょっと歴史の「水」みたいなところと、自然で「花」みたいなところにいて、そこからまたガラッと視点を変えて、別の視点で、「ここをちょっと紹介してみたら良いじゃないか」というのは何かありますか。

反町委員

別の視点のちょっと先に1つ申し上げたいのは、チネチッタの話を最初にされて、銀柳街があって、銀柳街は川崎を代表する商店街ですけど、「チネチッタの方に小川があったじゃないか」みたいな話があって、私は全然その意識を持ったことがなかったのですが、確かにチネチッタのところは小川町という地名なんです。絶対そうだと思います。

その延長で、ちょっと私は皆さんほどちゃんと歴史に基づいた説得力のあるコメントはできないのですが、ただ、商店街関係で言うと、シンプルに銀柳街という商店街は本当に川崎を代表する、当然ながら相当な歴史もある商店街ですから。本当に川崎を代表する商店街、もちろん相当の歴史もあるというところで、銀柳街という場所は（街歩きの候補として）推したいなというのがあります。

さらに、二ヶ領用水の関係で言うと、私も生まれも育ちも中原区なので、中原区のいろんな市民団体さんとかとの絡みもめちゃめちゃあるのですが、それで言うと、実は、梅の花もですね、中原区にはすごい梅の花を推す団体もあるのですよ。ちょっとそこだけ一言言っとこうかなということです。

嶋田委員

幸区の梅園（御幸公園）が、多摩川大橋のたもとのところにありますよね。

事務局（片岡）

野球場があるあたり。あそこは綺麗ですね。

反町委員

あと、もう1つ中原で言うと、私にとっては自然なのですが、外からの人にめちゃくちゃ言われるので、まさにこの小杉のエリア、「カギの道」というのが本当にたくさんあって、私はそこで育ったので普通ですけど、外の人が見ると、なんでこんなに道がまっすぐ進めないのだという、1本の道がクランク型になっている、そんなのばっかりなのです。そういう道ばかりです。それがすごく面白くて、それめちゃんと説明できる方いらっしゃると思うのですが、すごく面白いので、目的地になるかどうかと言うと、あれですけど。私としては、史跡めぐりの中のルートにはぜひ入

れてもらえると面白いかな（と思います）。なんか最近工事していて、そのカギの道が解消される傾向にあると思います。ただ、それは何十年（の工事なので）、まだまだかかりそうです。

嶋田委員

小杉御殿のあたりですね。

反町委員

そうです。まさに。西明寺のところはまさに大きいですけど、でもちょっと1本入ったところもあるのですよ。ちょっとずれているのです。

事務局（浅井）

城下町なんですよ。お城に攻め込めないようにこう（かぎ状に）しているのだと認識していますけど。

反町委員

私の知識ではその認識ですね。ただ、あまりちょっと語れませんというところもあります。

あとは、全然話を変えると、歩いていける場所じゃないかもしれないですけど、工場夜景とか。街歩きとは違うのかもしれないですけど、やっぱり歩くとすごく面白い特徴的な場所としては、ぱっと浮かんだ1つは工場夜景というか、そういうエリアです。

あともう1つだけ商店街をあげると、元住吉のブレーメン通りとかはすごい商店街で、一日過ごせるは言い過ぎかもしれないですけど、そのぐらいちゃんと楽しむ内容のある商店街です。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ちょっと伺いたいと思うのが、例えば銀柳街とブレーメン通りとか、これだけ発達している都市の中で、ああいうよくある昔ながらの商店街が残っている町は結構少ないかなと思います。横浜は今ほぼないじゃないですか。これはなぜ残れているのか、それこそ人の力なのかもしれないです。なんか理由はあるのですかね。これが残れている理由、誰かが残しているのですか。

反町委員

これは難しいところで、銀柳街に関しては、場所とか規模とかそういうところで、まだまだ廃れるような状況にはないと。ただ、お店はめちゃ変わっているのですよ。昔ながらやっていた人がそのまま続けられているかという、全然そんなことがなくて、賑わっているようですけど、もう大半が、いわゆるチェーン店、有名なお店（に

なっていて)、従来からそこでお店をやっていた方は、単なるオーナーさんになっていて、貸しているだけのところがすごく多くて、それが課題なのです。

なんでそう言ったかという、(チェーン店は)商店街に加盟してくれなかったりするのですよ。いわゆる会費とかあるわけですね。商店会費で成り立っているところもあるので。ただ、銀柳街で言うと、それでもあの規模なので、頑張って、積極的にイベントをやっている、そういうところで、あの規模はしばらく大丈夫そうですけど、川崎も商店街全体としてはかなり厳しいですね。プレーメン通りはまた本当に特殊の中の特殊で、やっぱり組織としてちゃんとしています。きっちり運営とかPRとか、商圈レベルの連携とかをすごくちゃんとやっている、大丈夫かなとは思いますが。他(の商店街)はかなり厳しいので、というところです。

事務局(片岡)

なるほど。場としては残っているけど中身は変わっている。正直、野毛(編集注 横浜市内にある飲食街)とかもそうですね。昔ながらの店が意外と無くて、チェーン店ばかりだったりしますね。

鈴木(勇)委員

銀柳街とかも昭和30年代や40年代の写真とか映像とか見ていると、やっぱり今は店舗の構成がまるで違いますから、やっぱり今は、もう本当に軒並みチェーン店になっている感じですね。

事務局(片岡)

逆に残して愛してほしいですね。じゃあ、逆にその雰囲気、外食チェーンであっても、あの雰囲気を大事にしていって、愛着を、この本をもとに植えつけたいですね。「みんな応援で入ろうよ」になっちゃうんですけど。

もう一個気になったのが、「カギの道」っていうのは、多分今回散歩、特に歩くことを考えるとすごく大事な部分なのかな。別に目的地だけでなく、行くまでの要素としてすごく大事かなと思うんですけど、これは仮に掘り下げるとしたらヒントみたいなのがあったりしますか？

反町委員

(歴史に詳しい方が) ちょっといらっしゃる、(その方々に聞いたほうが良いかなと思います) ね。

事務局(片岡)

例えば、望月さんですとか鈴木(勇)さんですとか、こういったところを掘り下げていくと、話がしやすくなるみたいなところのヒントをいただけますか。

鈴木（勇）委員

いっぱい道はあるわけですがけれども、古くからある道（の数）は、そんなにないのですよね。そうすると、それはある程度、昔の地図とかを対照すれば、ここの道は古いのだとか（が分かるはずです）。そういう目で見ながらその道を歩くと、「こんなところにこんなお地蔵さんがあるな」とか、「こんな奇妙なカーブをしているな」とか、そういうのがやっぱり出てきやすいと思うのですよね。

ですから、いっぱい道はあるけれども、ある程度、目的というか対象を絞りながら歩けると、身につけやすいのかなと思います。

事務局（片岡）

それは地図を追っていくしかないですね。

嶋田委員

街道が大山街道とか、中原街道とかの感じであるのだから（そこを見ればいいのでは？）。

鈴木（勇）委員

もちろん、そうですね。そういうメジャーな道もあるのでありますが、村と村を結ぶような狭い道もあって、それもやっぱり昔からある道はあるわけなのですよね。

でも、いっぱいある道の中で結構絞っていくと、結構限られているので、昔の江戸時代、それ以前の道筋がなんとなく見えてくるな（と思います）。

事務局（片岡）

これは掘り下げるのが大変ですね。でも、多分、これもさっきの川と一緒に、多分徐々にこう発展していった都市じゃなきゃ見れないものですよね。そこを知りたいです。

嶋田委員

教育委員会で地域文化財というのを集めているのですよ。

区ごとに登録していて、幸区は少ないですけども、そういうやつに結構お地蔵さんとか道祖神とかも登録されていて、そういう（お地蔵さんや道祖神）のが残っているところはやっぱり古い道なんじゃないかと思います。

うちの近くにある道祖神とお地蔵さんのあるところは鎌倉街道だったらしいです。

望月委員

道とかではないですが、残してほしい、地図を持って歩いてほしい地域で、私が唯一この本で載せてもらいたいのが、岡上（おかがみ）なのです。

飛び地のところの岡上ですけども、川崎で唯一、谷戸田（やとだ）が残っている地

域なのです。だから、これから田植えが始まりますし、秋になれば稲穂がなって、頭（こうべ）を垂れる風景が見られるというのは、川崎ではもう岡上だけです。

土地の地名もよく残っていますし、先ほど言っていたお地蔵さんですとか、そういうのも昔ながらで、その道に残っていますし。かつ結構な丘陵なものですから、ぐつと山があって、また麓に降りると、谷戸田が広がっているようなところ。ナショナルトラスト（編集注 市民が自分たちのお金で身近な自然や歴史的な環境を買い取って守るなどして、次の世代に残すという運動のこと）で残しても良いぐらいの雰囲気ですけども、なかなか今、代替わりで、田んぼも少なくなってきた、畑になったりして。近所の岡上小学校では、田んぼを管理して、いつも田植えをした子どもたちが秋の収穫もしているという地域で、周りは町田と横浜の緑区に囲まれている独自の岡上ですけども、あそこはぜひ取り上げていただけると、自然もあり、かつての農業も、民俗慣習もありという形で、非常に良いところかなと（思っています）。お正月になると「どんど焼き」も今でもやっていますし。

「岡上に親しむ会」も、私もよく知っているのですけども。本当に地域の人たちも、98歳のおじいさんですとかそういう人たちがまだまだ元気でやってらっしゃいます。良い場所ですと（思って、推薦します）。

中村委員

今ちょうど「岡上地域グリーンツーリズム」というのが、和光大学の学生がやっているの、その紹介を取れたら良いのかなと思いつつも、ちょっとやっぱり飛び地なので、他の人がたくさん来てグリーンツーリズムの時とかで歩く分には良いのですけど、すごく難しいのが、やっぱり守られたところだからあんまりたくさん来るとすごく難しい。その田んぼも、オーケーなところは入れるのですけど、他の人たちが入るとやっぱり厳しい（と思います）。

望月委員

田んぼは入れないです。真ん中の道は通れますけども。

中村委員

田んぼはもちろん入らないのですけど、なんか他の人が入ることをあんまり。それこそ岡上でずっとワインを作っている農家さんがいらっしゃるのですけど、その方が開けた岡上を作ってください始めたりして。和光大学とグリーンプリズムとかをやっているのですけど、やっぱりちょっと難しいなというのはなかなかおっしゃっています。古くからそこにずっと住んでいる人たちがいらっしゃるの、そこも配慮しながらのご紹介が良いかなと思います。

でも、谷戸でいうと、先のとんもり谷戸は一応田んぼがあって、どろんこ教室をやっているの。谷戸って呼ばれて、本物の田んぼが残っているのは岡上だけです。とんもり谷戸は、「飛森（とんもり）谷戸の自然を守る会」で、どろんこ教室でやっているの、（スポットとして、その紹介は、どうでしょうか）。とんもり谷戸は参加型で、生田緑地のマネジメント会議をやっているの、開かれています。

事務局（片岡）

こういうふうに残すべき風景、正直 100 年後どうなっているのか誰も想像できないです。もしかしたら、なくなったっていうのは、全然あると思うのですよ。だから、そういった残すべきものは積極的に載せていけたら、一番良いですよ。

中村委員

それを残すというの、保全活動している方とか、一緒に自分のふるさとの風景を守るために、「参加もお待ちしております」というの（紹介とか）やってくれとすごく嬉しいです。残っているんだというよりも、それは実は守っている人たちが後ろの背景にいっぱいいたりするので、若手を求めているのですよね。

嶋田委員

残っているじゃなくて、守っているのですね

中村委員

守っています。必要に応じてやっぱり木を切っていますし、整備し続けないとなくなってしまう里山なので、必ず人の手は入っています。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ここは多分場所だけでなく、人も合わせて紹介するのがベストだろうな（と思います）。ありがとうございます。すいません、カギの道から色々と（話題が広がっています）。

中村委員

時間がないですが、私もちょっと（意見を話すと）、「川崎の『おたから』地図」のところで、無形文化財なのか有形なのか、どっちのかなというところだけ気になりました。無形だったら、やっぱりチッタの沖縄の民俗のやつが良いのかなと思いつつも、やっぱり江戸時代とか鎌倉から続いている獅子舞を、ぜひ取りあげていただきたいなと思っています。

あと、地域文化財だと、先ほど望月さんが言われた通り、どんど焼きが各地に残っているので、その辺りも良いところなのかなと、思いました。以上です。

事務局（浅井）

ありがとうございます。ここ（お宝地図）は有形無形に限らず（にしていきたいです）。

中村委員

あとは、あまり有名じゃないですけど、有名じゃないというか、なかなかそんなにすごく有名じゃないんですけど、「禰宜舞（ねぎまい）」という徳川家の、関ヶ原の戦いの時に、その勝利を願って舞われているのが宮前区の白幡神社（白幡八幡大神）で禰宜舞があるので、それをぜひ取り上げてもらいたいかなと思います。すごく重要なお面と舞は、もうそこでしか残っていないので。禰宜舞というものです。

事務局（片岡）

ありがとうございます。無形（文化財）も入れていきたいですね。ありがとうございます。

ちょっと時間がない中ですが、もし（話したいことが）まだあれば、（挙手で）お願いします。

阿久津委員

前にもちょっとあげたかもしれないですけど、大山街道の地図で感じるっていうところで、「mama-on!」という冊子を作っているんですけど、その中で、大山街道を紹介したことがあって、地図をイラストレーターの方に書いてもらって、なんかそこには歴史とか入れなかったのが、今考えたら、ちょっと入れたら面白かったなと思ったのですけれども。

溝の口から二子新地まで歩いていくと、結構古いお店から、歴史あるところから、新しいおしゃれなお店とかもあって、それこそ駄菓子屋さんもあったりして、二子神社も、岡本かの子の生家とかもあったりして、なんかファミリーで、世代を問わず、楽しく地図を見ながら歴史と今を感じ、散歩ができるのかなというふうに思って、おすすめしたいなと思います。

鈴木（ひ）委員

大山詣って、話を聞いて面白いなと思ったのは、江戸時代で何十万人もの人が、その道（大山街道）を繰り返し歩いていることですね。

事務局（片岡）

ちょっと全然足りないぐらい、もっと聞きたいなということがありつつ、この施設の（閉館前の）チャイムが鳴ってしまいましたので、もしこの部分、もっと掘り下げていただきたい（ことがある）とか、逆にそこはアドバイスとしては是非いただきたい

なと思いますので、またメールなり（ご送付いただければと思います）。

事務局（浅井）

思いついたものはメールで送っていただければ（幸いです）。

事務局（片岡）

よろしくお願いします。

（次第一４） 総括／次回案内

事務局（片岡）

そうしましたら、最後に、総括と今後についてお話させていただきます。

事務局（浅井）

本日もありがとうございました。今日、第４回になります。令和７年度、８年度と１３回までしているのですけれど、次回からは、いよいよ、書名や、デザインの議論に入ってまいりたいと思います。

日程はこの７月の前半のところで、おそらく会場はこちらの同じ場所、夜間の時間帯で、と考えております。またご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

ちょっとこちらの年間の全体の予定表もちょっとお示ししているのですけれども、変更したところがございます。以前は「７月にデザイン、９月にアンケート」という形だったのですけれども、ちょっとアンケートのお伺いを７月に繰り上げております。代わりに紙面デザインについては７月で一旦お伺いして、また編集の方で練って、９月のところで「こう変えてみました。どうでしょう。」という形で、２段階で議論してみたいなと考えておまして。

次回は宿題がございますので、お気軽にお越しください。堀切さんからは何かございますか。

事務局（堀切）

事務連絡ですけれども、今回の「しるし」（編集注 川崎市史の制作過程を広報していく紙面の愛称）が、市長にご確認いただきまして、印刷のほうをさせていただこうと思っているところです。

各施設にも配架させていただくのですけれども、委員の皆さまで、もし、こちら配っていただいたりですとか、関連施設などで置いていただいたりですとか、もし可能でしたら、ご連絡いただくか、この場でも結構ですし、後でメール等でもご連絡いただけたらと思いますので。郵送の方をさせていただきますので、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

事務局（浅井）

第3回にいただいたご意見を反映いたしまして、愛称をつけましたのと、裏面に「すごろく」を作ってみました。市史が出来上がるまでを追体験できる「すごろく」で、2025年3月までは実際にあったことでできています。後ろが「ありそう」なことなのですけれども、今後実際にあったことにどんどん変えていったりして、記録も残る「すごろく」にしたいなと思っています。ありがとうございます。

以上